

◆俯瞰メルマガ第 97 号◆

俯瞰工学研究所の松島克守のメールマガジンです。俯瞰メール 97 号をお送りします。

◆時候のご挨拶

今年ももう 1 ヶ月が過ぎました。昨年末までにやろうとして持ち越したことをフォローしました。ウッドデッキの塗装と修理です。その他、終活の事務処理です。天候もチグハグですが、だんだん慣れてきました。気候温暖化から気候危機にエスカレートしています。

- グローバル経済の中で資本主義の再定義
- 各国中央銀行がデジタル通貨を真剣に議論
- トランプファーストで世界は振り回される
- 第 73 回俯瞰サロン開催案内 2/20(木)
「CBDC(中央銀行発行デジタル通貨)の創り方」
- 俯瞰のクッキング“食日記”
- サムライたちのイノベーション AIBO
- 俯瞰の書棚 “絶対に休めない医師がやっている最強の体調管理”
- 雑感・私感

◆グローバル経済の中で資本主義の再定義◆

最近、グローバル化に伴う社会のひずみに対して、改めて資本主義を再定義する議論が活発となりました。米英の株主至上主義を見直して「ステークホルダー資本主義」に転換する議論です。ダボス会議でも、積極的に企業経営者からこの主張がされています。

“「我々の知っている資本主義は死んだ」。21 日のダボスでの討論会で、顧客情報管理の大手米セールスフォース・ドットコム（Salesforce）のマーク・ベニオフ最高経営責任者（CEO）が声を上げた。企業は株主への利益の最大化ばかりに目を奪われ、「不平等と地球環境の緊急事態を招いた」と語った。”

“IBM のジニー・ロメッティ CEO はダボスで、「すべてのステークホルダーに配慮することが事業継続の条件になる」と話した。急速なデジタル化が進むなかで、従業員のスキル向上に経営資源を割くべきだと主張した。”

日本では、企業が巨額の余剰資金を溜め込み、それを投資ではなく自社株買いという方法で株主に還元して、投資家が主張する ROE の改善をしていますが、企業は将来の成長に向けた積極的な投資をするとともに、時代の変化に従業員が対応するように教育に資金を使うべきです。ともかく日本企業の従業員教育システムはあまりにも貧弱で、資金を投入していません。しかし私の見てきた外資系の企業では人材育成に積極的に取り組み、人材育成こそ最も有効な ROI であることを認識できました。働き方改革の大前提です。

本国での弾劾裁判を避けてダボス会議に乱入したトランプ大統領は、環境問題に関して「楽観主義で行こう」、そしてムニューシン財務長官は、“脱化石燃料を訴える前に「大学で経済を勉強して欲しい」とグレタ・トゥンベリさんを揶揄しました。これに対しトゥンベリさんは、科学を理解するのに「学位は必要ない」と反論しました。相変わらずトランプ政権はとん

でもないことを口にして、世界中から冷笑されアメリカの孤立を浮き出させました。ダボス会議の議論は、下記の「株主資本主義への反乱が始まった。チャタムハウスのトップが説く、次のモデル」がわかりやすい解説です。

トランプ政権はともかく、アメリカの知性は資本主義の再定義を主張しています。ノーベル経済学賞受賞経済学者ジョセフ・E・スティグリッツ は、
“2 世紀にわたる研究の結果、私たちはようやく、アダム・スミスのいう「見えざる手」がなぜ見えないのかを理解した。そんなものは存在しないからだ。

...

「市場に任せる」というスローガンはもはや意味を成さない。かつて右派はこう考えた。市場を再編し、それに伴い政治も変えていかなければならない。

...

こうしてレーガン政権時代から、最上層の人々に有利な市場の再編が始まった。だがそこには、大きな過ちが 4 つあった。

...

第一に、格差の拡大が多大な影響を及ぼすことを理解していなかった。第二に、長期的な思考の重要性を認識していなかった。第三に、共同行動の必要性に気づかなかった。公正で持続可能な成長を実現するには、政府がそれを推進していかなければならない。そして第四に、これが何よりも重要な点だが、イノベーション経済を推進しながら、知識の重要性や、テクノロジーの基盤となる基礎研究の重要性を十分に理解していなかった。”

と、率直にこれまでの経済学を見直す必要があることを説いています。この議論は「欲望の資本主義」(NHKドキュメンタリー)を見ると理解が深まります。日経新聞の「逆境の資本主義」も深掘りした解説を連載しています。

以上の文脈からは離れますが、かつての安倍内閣の経済政策のアドバイザーであった京都大学の藤井聡教授のデータ分析は衝撃的です。示されたグラフは内閣府発表では一本の直線で回帰してありましたが、藤井教授は精密に 3 本の直線で回帰しています。消費増税を繰り返すつど「実質消費」の伸びが低下しています。衝撃的な指摘です。これまでなんとなく財政再建のために消費増税は必要だと思い込んでいましたが、改めて専門家の鋭い指摘に自分の認識を変えました。消費増税が経済成長を鈍化させている可能性は、確かに高いです。内閣府は一本の直線の回帰で、これを隠蔽していたわけです。アベノミクスの結果を評価する時期です。私達も内閣の発表を鵜呑みにしないで、気をつけて見ていく必要があります。

なぜ「資本主義」は輝きを失ってしまったのか

<https://toyokeizai.net/articles/-/319516>

「逆境の資本主義」連載・インタビューまとめ読み

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO53992140Q9A231C1000000/>

ダボス会議、資本主義の再定義探る 格差・環境が転機

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO54703870S0A120C2EA2000/>

株主資本主義への反乱が始まった チャタムハウスのトップが説く、次のモデル

<https://globe.asahi.com/article/13070945>

安倍側近が警告「消費増税がリーマン危機『数十個分』の被害を招く」

<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/65426?page=2>

◆各国中央銀行がデジタル通貨を真剣に議論◆

Facebook がデジタル通貨「リブラ」の発行を計画し、中国もデジタル通貨の発行を検討していることを受け、最近急速に議論が活発になっています。

今まで距離を置いてきた各国の中央銀行が、デジタル通貨の発行を真剣に検討し始めています。Facebook のリブラの発行は止められますが、デジタル人民元の発行は止められません。巨大な中国経済と周辺に形成されつつある一帯一路の中国経済圏はさらに巨大で、銀行間ネットワークを前提とする中央銀行の機能が脅かされると感じているのでしょう。さらに言えば、世界中を縛り付けているドルの基軸通貨の支配力が脅かされる可能性があります。現在は米国のドル決済が世界経済を支配しているので、いわゆる経済制裁が有効ですが、これが崩れれば、その威力は弱まります。とりわけ経済制裁の影響で経済が低迷しているロシア、イラン、北朝鮮にとっては朗報でしょう。

各国中央銀行は「CBDC (Central Bank Digital Currency) の活用可能性を評価するためのグループ」を立ち上げました。日銀や EU 中央銀行 (ECB)、イングランド銀行のほかに、スウェーデン中銀のリクスバンク、スイス国民銀行、カナダ銀行を含む6中銀と国際決済銀行 (BIS: Bank for International Settlements) が参加します。スウェーデン、カンボジア、ウルグアイは既に CBDC を発行しています。

中国人民銀行がアリババやテンセントなどと連携しているデジタル人民元は、壮大な実験です。世界の金融体制にどのような影響を与えるかは今後の研究が必要とされていますが、中国はやるでしょう。アリババとテンセントのモバイル決済は、既に 5,000 兆円です。この規模を考えると、世界は現金のない世界に入りつつあります。

日本は依然現金需要が高い、セキュリティが不安等と、日銀は現時点でデジタル通貨の発行に及び腰です。こうした日本人の性向で、この 30 年間、日本は世界の時流からとり残されて成長のない国になってしまいました。

カンボジアの中央銀行のデジタル通貨「バコン (Bakong)」は私の畏友ソラミツの宮沢和正氏が開発しています。宮沢和正氏はソニーで、社内の障害、国際的な標準化の嫌がらせを撥ねのけながら電子通貨エディ (Edy) を発行し、お蔭で私は Suica でキャッシュレスの社会に入ることが出来ました。基本小銭は持ちません。アップルウォッチの Suica で、ほとんど済みます。

※今回ご案内する俯瞰サロン(2/20 開催)で、宮沢和正氏に「CBDC の創り方」をご講演いただきます。この流れを、実際に創っている方のお話です。ぜひ、一緒に聞いてみませんか？

デジタル通貨、競争加速へ 覇権争い絡み国家主導も

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2019122800245&g=int>

日欧中銀など、デジタル通貨発行へ共同研究中国やリブラに対抗

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO54677450R20C20A1MM8000/>

日銀、欧州中銀らとデジタル通貨研究へ リブラを前に「呉越同舟」

<https://www.newsweekjapan.jp/stories/business/2020/01/post-92203.php>

なぜカンボジア中銀はデジタル通貨を発行するのか？

<https://www.coindeskjapan.com/35167/>

【2019年最新データ】中国モバイル決済市場状況

<https://www.chaitopi.com/2019/05/31/>

◆トランプファーストで世界は振り回される◆

依然として、トランプファーストで世界は振り回されています。世界経済に重大な影響を与えている米中貿易戦争は、とりあえず中締めで暫定的な合意ができましたが、未だに関税は残っていますから、世界経済の重石になっています。トランプの岩盤支持層と言われる農家に、中国からの大量の買い付けを約束させましたが、中国がどこまで実行するか疑問視されています。ともかく、譲歩を勝ち取ったということを選挙民に言いたいだけです。

これでトランプ大統領は、北米と日本そして中国との、彼がいうディールを一応処理しましたから、今度はEUです。相変わらず、合意できなければ自動車に関税をかけると恫喝しています。自動車はヨーロッパの重要な輸出品ですから、応じると思っているでしょう。

このような主要な経済圏との合意交渉が、実際にアメリカの経済に寄与しているかは疑問です。すでにGMなどは雇用を縮小しつつあり、鉄鋼業も不振で、トランプの岩盤支持層というラストベルトの雇用も縮んでいます。結果として、盤石のように見えたトランプ再選も弛みが出ているとも報じられています。トランプ大統領は、アメリカの人口の3分の1を占めるというキリスト教福音派の支持を受けて前回当選し、その見返りとして、これまでの大統領ができなかったようなイスラエルシフトをしました。イスラエルの首都がエルサレムであることを認め、大使館を移設し、外交でもイスラエルを強力に支持する姿勢を見せてきました。しかし伝えられている所によると、福音派の有力なメディアが、トランプ大統領には倫理的に問題があるという論調を展開して注目されています。

これに対しトランプ大統領は、イスラエルのパレスチナ吸収を認める中東和平案を提案しました。これは絶対にアラブ諸国に受け入れられません。和平案になっていません。ソレイマニ司令官殺害も、福音派に対するアピールとも言われています。国際関係の緊張緩和という公共の利益よりも、自分の再選を優先するトランプファーストです。

イスラエルに敵対するイランに対して強硬な姿勢で対峙することで、福音派にアピールしていますが、これは危険な火遊びになりました。幸い危機一髪のところ相方が自制して事なきを得ましたが、このようなことは単なる火遊びでは済まされません。

皮肉なことは、アフガニスタンやイラクから米軍を少しでも引き上げたいと言っているトランプ大統領は、中東に増派を余儀なくされました。イラクからは米軍撤退を要求されています。さすがにこれはISの台頭という大きなリスクがありますから、拒否しています。深刻なジ

レンマに陥ってしまいました。

イランのほうも問題があると思います。イエメンのフーシ派、レバノンのヒズボラ、イラクのシーア派民兵などを支援して、必要以上に地域の緊張関係を高め混乱を招いています。各地のシーア派を支援するのはシーア派の盟主と自任するイラン指導者の自尊心かもしれませんが、これも自己中心的です。経済的に困窮しているイラン国民を救うために核合意に戻り、経済制裁を脱して産業育成で国を発展させるべきですが、専制的なリーダーは自己ファーストです。

トランプ大統領がこれまでの核合意を破棄して制裁を復活させ、イランに非核化を強く要求する気持ちもわかります。北朝鮮に対して「戦略的忍耐」をした結果、北朝鮮は核兵器を完成させアメリカ本土までの射程を持つミサイルを持つまでになりました。イランが核兵器を持ち、アメリカ本土とは言わないまでもイスラエルに直接攻撃できる能力を持つことは、絶対に許容できないでしょう。

そもそもイスラエルが核兵器を持っていることは、世界中が知っています。そしてイランに直接攻撃できる能力があるわけですから、イランも同等の能力を獲得しなければならないという思いがあるのでしょう。結果としてイラン国民は経済的に厳しい生活を強いられ、地域はますます不安定化し、地域全体が貧困に苦しめられています。人間のメンツ、意地そして敵対という「性悪」を超越する指導者はいないのでしょうか。

その北朝鮮ですが、アメリカとの非核化交渉を打ち切り、シンガポール会談の前の状態に戻りつつあります。核兵器と長距離弾道ミサイルがあれば体制を維持できるということでしょうが、イランも全くこれと同じ構図でしょう。ただイラン核合意は、このスピードを落とすということですから、トランプ大統領も非常に悪い合意だと言っているわけです。

北朝鮮は絶対に非核化に合意しないと思いますが、韓国の文大統領は南北融和を声高に主張し、これに対してアメリカは勝手な事は許さないと強く警告しています。それにまた強く反発しています。駐韓アメリカ大使は前の太平洋軍司令官ですが父親がアメリカ軍人で母親が日本人のため風貌が日本人に近いということで官民挙げてハリス大使の発言に反発しています。韓国から北朝鮮の旅行を推進しようと進める文大統領に対し北朝鮮は冷たく、すでに北朝鮮の観光地にある施設を撤去するように要求しています。たまたま新型コロナ肺炎を受けて観光客の受け入れを全面的に停止しました。北朝鮮問題はトランプ大統領の再選に寄与しませんからトランプ大統領の発言はほとんど聞こえてきません。

トランプ大統領を絶対に再選させてはならない、という強い意志がどこまで届くか注目です。ただ民主党の対立候補も混戦状態で、最も可能性の低いサンダース議員の支持が増えているとは困ります。バイデン大統領とミシェル・オバマ副大統領の組み合わせで対抗するという話も出ています。

トランプ米大統領、中国と「素晴らしいモンスター」合意に署名へ

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2020-01-15/Q44WOYDWLU8701>

トランプ氏、EUと「貿易合意」見込むー不成立なら自動車関税示唆

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2020-01-21/Q4GP8AT1UM0Y01>
3.トランプ大統領の再選ならず

<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/69863?page=3>

ソレイマニ司令官殺害でトランプ大統領の中東戦略は支離滅裂に

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2020-01-06/Q3O7LMT1UM0W01>

トランプ米大統領の中東和平案、域内対立激化の恐れも

<https://jp.reuters.com/article/israel-palestinians-usa-idJPL4N29T2SA>

イラン ウラン濃縮活動強化を発表 IAEAとの関係は維持

https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200106/k10012236111000.html?utm_int=news_contents_news-main_001

北朝鮮、核開発中止の撤回発表 米国の制裁継続に「新たな道」も

<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2020/01/post-92197.php>

◆第73回俯瞰サロン開催案内(2月20日)

ブロックチェーンの開発、サービスの提供で世界を拓く

ソラミツの宮沢和正さんに聞く

「CBDC(中央銀行発行デジタル通貨)の創り方」

<https://www.fukan.jp/俯瞰サロン/>

■日 時： 2020年2月20日(木)18時30分より(18時受付開始)

■会 場： 品川インターシティ会議室3 東京都港区港南 2-15-4

<http://www.sicity.co.jp/download/accessmap.pdf>

■参加費： 講演会のみ 1,500円 / 懇親会 3,000円

当日、受付にて申し受けます。

■定 員： 50名程度 (定員になり次第、申込みを締切ることがあります)

■お申込み専用サイト：

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/671ff62b636573>

■講師プロフィール

ソラミツ株式会社最高顧問。

1956年東京生まれ。1980年東京工業大学大学院卒(経営工学修士)、同年ソニー入社。ビデオオンデマンド企画室室長、ソニーエレクトロニクス USA IT 部門ダイレクター、ソニー パーソナルファイナンスサービス企画室長、IC カード事業部総合企画室統括部長などを歴任。2001年にビットワレット執行役員企画統括部長に就任し、電子マネー「Edy」の立ち上げに従事。同社常務最高戦略責任者を経て、2010年からは楽天 Edy 執行役員企画室長、ブランド業務推進部理事などを歴任。2008年には金融庁金融審議会委員に就任。ソラミツ最高執行責任者(COO)として、ブロックチェーン技術の開発とサービス提供に取り組む。東京工業大学経営システム工学非常勤講師、ISO/TC307 ブロックチェーン国際標準化日本代表委員を兼任

ソラミツ株式会社：同社が開発したブロックチェーン「Hyperledger Iroha」は、IBM、Intel に続いて世界で3番目に標準として採択され、カンボジア中央銀行や会津若松の地域通貨などに採択されている。<https://soramitsu.co.jp/ja>

著書：「かくして電子マネー革命はソニーから楽天に引き継がれた」カード・ウェブ編集部

◆俯瞰のクッキング“食日記”◆

改めて自分の食生活を振り返って改善すべき所があるか何日か食日記を付けてみました。

1月 xx 日

朝昼食 野菜ジュース(人参、セロリ、レモン汁, アマニオイル大サジ1)、ミニトマト 10 粒、ナッツ大匙1、納豆カップ1と刻みネギ、チーズ1片(KIRI)、紅茶、アボガド半分、鶏ガラスープ

夕食 豚肩ロースの角煮(ニンニク、しょうが、ネギ)、鰯の蒲焼き風、セリのお浸し(ポン酢和え、桜エビトッピング)、ワカメの味噌汁、いくら醤油付け、白飯少々。

1月 xx 日

朝昼食 野菜ジュース(人参、セロリ、レモン汁, アマニオイル大サジ1)、ミニトマト 10 粒、ナッツ大匙1、納豆カップ1と刻みネギ、チーズ1片(KIRI)、紅茶、アボガド半分。食べ残しの豚角煮、鶏ガラスープ

夕食 ゴーヤチャンプルー(ニンニク、しょうが、ネギ)、太刀魚ムニエル、長芋お焼き(ジャコ、海苔、刻みネギ、卵)、えのきの味噌汁

1月 xx 日

朝昼食 野菜ジュース(人参、セロリ、レモン汁, アマニオイル大サジ1)、ミニトマト 10 粒、ナッツ大匙1、納豆カップ1と刻みネギ、チーズ1片(KIRI)、紅茶、ブルーベリー小さなカップ1、ゴーヤチャンプルーの残り

夕食 回鍋肉(ホイコーロー)(ニンニク、しょうが、ネギ)、鰯のハーブパン粉かけグリル、ほうれん草のナムル、アサリのウシオ汁、

1月 xx 日

朝昼食 野菜ジュース(人参、セロリ、レモン汁, アマニオイル大サジ1)、ミニトマト 10 粒、ナッツ大匙1、納豆カップ1と刻みネギ、チーズ1片(KIRI)、紅茶、キャベツの茎とベーコンのスープ(回鍋肉の残り)

夕食 豚肉キムチ(ニンニク、しょうが、ネギ)、鯖のハーブ焼き、ブロッコリーの豆鼓炒め、冷や奴、ワカメの味噌汁

1月 xx 日

朝昼食 野菜ジュース(人参、セロリ、レモン汁, アマニオイル大サジ1)、ミニトマト 10 粒、ナッツ大匙1、納豆カップ1と刻みネギ、チーズ1片(KIRI)、紅茶

夕食 青椒肉絲(牛肉とピーマンの細切り炒め)(ニンニク、しょうが、ネギ)、太刀魚のムニエル、セリのお浸し(ポン酢和え、桜エビトッピング)、オクラとマイタケの味噌汁アオサ入り

1月 xx 日

朝昼食 野菜ジュース(人参、セロリ、レモン汁, アマニオイル大サジ1)、ミニトマト 10 粒、ナッツ大匙1、納豆カップ1と刻みネギ、チーズ1片(KIRI)、紅茶、太刀魚の骨のスープ

夕食 担々豆腐(麺の代わりに豆腐)(ニンニク、しょうが、ネギ)、ホタテ貝柱のソテー、ナスのベーコンはさみ焼き、ナスの味噌汁アオサ入り(ナスの切れ端利用)

という感じです。低炭水化物食ですので、基本的にご飯や麺は食べません。こうしてみると炒める料理が多いので、中華をよく食べています。魚はほとんどグリルかフライパンで焼いています。塊肉以外はふるさと納税で入手しています。ほとんど無料です。

鶏ガラスープは時々作って、朝に飲みます。特に冬は、ネギ、しょうが、ニンニク、タマネギ、ローズマリー、タイム、ローリエなどのハーブを入れます。時によってはクコの実、ナツメグも入れます。昆布、干しエビを入れると旨みが濃くなります。チキン、スペアリブ、魚の骨はスープに仕立てて、よく朝のスープにして飲みます。

基本的にこの料理は、私が買い物に行って私が作ります。以前は朝食の用意もしていましたが、最近ではパートナーが朝食を作るようになりました。今日は何を食べようかなと思って、それを買いに行って料理するわけですから、毎日楽しいです。外食は減多にしません。人との会食は適時します。といってもレセプションも入れて月 2 回くらいでしょうか。結果としてBMI22を維持しています。そして料理中を含めて、結局 1 日 1 本赤ワインです。

◆“サムライたちのイノベーション”◆

前回に引き続き「俯瞰の書棚」で紹介した本の一部を紹介しましょう。立ち読み気分で読んでください。

第五章 ロボットを生き物にした AIBO

大槻が招かれたのは土井の研究室であった。ドアを開けた先にあったのは、いかにも怪しげなロボットの試作品であった。

「この機械は、最近 MIT で研究開発された六本足の生物のような動きをする機械技術を元に作ったものだ。大槻さん、これをどう思う。これは、ビジネスになるか」

無機質な音を出しイビツに動く四本足の機械を眺めながら、大槻は次の瞬間にはこう返していた。

「これは、確実にビジネスになります」

なぜそのような言葉が口から出たのかはわからない。

「それじゃあ大槻さん、このプロジェクトのためにソニーに戻ってきてくれないか。あなたにリーダーを任せたいんだ」

.....

そして時は流れ、夏がきた。ソニーへの移転への希望を持ち続けていた大槻に、社長が声をかけた。

「大槻さんがやりたいと言っているソニーのプロジェクトの試作品を、私にも見せてくれないか」

大槻は土井にアポイントメントをとり、社長を招いてあのロボットの試作品を見せた。何も言わない社長。三人の間に沈黙が流れる。

「大槻さん、出向だね」

小さく、しかし力のこもった声だった。彼もまた、このロボットに魅せられた人間の一人だったのであろう。社長は大槻のソニーへの転職を、ようやく認めたのである。

試作機と初対面した年明けのあの日から、およそ 9 ヶ月後のことであった。

.....
当時の出井伸之社長への最初のプレゼンが行われた。しかし、この出井社長が高い壁として立ちはだかった。

「私には、こんな何の役にも立たないロボットが売れる理由がわからない」。説得しようと様々な情報を集め、ロボット事業がうまくいく理由を伝えようとした大槻。しかし年が明け1月になっても出井社長の意見は変わらなかった。

そこで、大槻はあることに気がついた。

「出井社長は、この事業を承認しない、とは言っていないよ」

イエスとは言わない出井社長だが、ノーと言っていない。決して反応が悪いわけではないと、サムライ大槻は押し切った。

そのようにして半ば無理やりの形で、「エンターテインメントロボット開発事業」が正式に社内で発足することとなる。嘘のような、本当の話である。

.....
「少数が集まれば、精鋭になる」という言葉がある。その言葉通り、少人数が全員血の汗を滲ませながら必死で働くことにより、ロボットは完成形へと着実に近づいていった。

大槻本人も、ほとんど寝ることなくロボットの動作チェックを行った。愛玩ロボットの動きは、ロボットらしい直線的な動きというよりも生物的なランダムで予測できないような動きであるはずだ。その動きを実現するために、大槻は毎日終電までソニー本社で作業した後、家の色々な環境で試作機を実際に動かし、その時気づいたことをメモに書き記し翌日その改善を指示する、といった生活を半年ほど続けた。

.....
そしてついに、役員へ発表するための試作機が完成した。少数精鋭部隊の汗と涙が、人工知能(AI)と視覚(Eye)のロボット(roBOt)という意味と、相棒(AIBOU)の意味が込められた「AIBO」という名のロボットとして、現実の商品となったのである。

.....
土井と大槻の二人は AIBO 試作品のデモを行った。それを黙って聞く役員達。その中には出井社長の姿もあった。プレゼンが終わった。

「こんな商品、売れるわけがない」

「5000 台が目標ということだが、1000 台でも売れたら御の字だよ、これは」

それは大槻にとって社会人生の中で最も炎上した会議だったそうだ。批判の嵐が巻き起こる中、大槻はそれに怯むことはなかった。

「では、AIBO の販売台数が 1000 台未満だったら事業は解散、3000 台を超えたら再び審議、そしてもし、目標の 5000 台を売ったら今後一切口出しをせず全てを我々に任せるといふ方針はいかがですか」

.....
思えば、出井社長へのプレゼンの時もそうだった。一度やると決めたら何が何でもそれを貫き通すサムライ大槻である。その力強い言葉に対し、役員は一回きりを条件に販売許可を出したのであった。

.....
いよいよ、ロボットが世に出る。しかし大槻の心には一つ不安があった。生産ラインの品質管理である。AIBO はモーターを多数使用しているので、製品品質は心配だった。AIBO が売れたとしても欠陥が多いのはまずい。生きているペットには、欠陥など存在するはずがないのだから。

しかしそんな大槻の心配は杞憂だった。大槻が長野県にある AIBO の生産工場に赴いた際のことである。生産ラインに携わる社員が検査工程において AIBO に物をぶつけてしまった時に

「ごめんね」

と声をかけ慈しむ姿や、まるで生きているペットに対するように丁寧に AIBO を扱う姿が、そこにはあった。「品質も、大丈夫だ」と安堵した。AIBO は多くの人に愛される。大槻は、そう確信した。

.....

そして 1999 年 6 月。この光景を、誰が想像しただろうか。AIBO はネット販売開始直後、20 分で完売した。その時ネットには一秒間で 30 万件以上のアクセスがあったそうだ。回線は混乱し、サーバーが落ちるなど予期せぬハプニングも起きた。その時はアクセスを止めるなど何とか即座に対応した。

.....

現在、ペッパーなど家庭用ロボットが珍しくない時代がやっと到来したが、その現代の技術の先駆けとなるような能力をすでに AIBO は兼ね備えていた。強化学習、音声認識、画像認識、人工知能(強化学習)と、生き物として自然な動作を機械へ吹き込むために導入したテクノロジーは現在、人工知能ブームによって世界中で沸騰している。そんな最先端の技術が、20 年前の AIBO には実装されていたというのだから驚きだ。

まだスマホもなくインターネットも普及していなかった時代に、このような商品を創った大槻は、機械学習や人工知能などの先端技術応用の商品開発の先駆者と言えるだろう。AIBO の販売が中止されることなく続けられていたとしたら、今のソニーはどうなっていただろうか、現在の人工知能ブームはどう変わっていただろうか。そう思わずにはいられない。

.....

大槻は再びソニーを去る。しかし AIBO への愛を抱いたまま

.....

その後も AIBO は人々に愛され続けている。「こてつ」と名付けられた AIBO との 15 年間の思い出を綴ったブログは現在も更新が続けられている。また AIBO の部品修理サービスがソニーで公式に停止された後も、有志による AIBO 修理団体が発足し活動している。修理の際必要となる部品は、使えなくなった AIBO をペットオーナー達が「献体」として提供した。

.....

「5000 台売ると役員会に言い放ったとき、売れる確信は全くありませんでしたよ。でもね、やると決めたからには何としても、やる。その気持ちは昔から持ち続けてきましたから」AIBO はサムライ大槻だからこそ完成し、成功したのだ。

.....

読んでみませんか。

[Amazon](#) で、Kindle 版 (電子書籍)とオンデマンド (ペーパーバック)で発売中です。

「サムライたちのイノベーション」

磯部宇彰、岡太郎、城下了輔、名和愛乃、松島克守、俯瞰工学研究所

◆俯瞰の書棚 “絶対に休めない医師がやっている最強の体調管理”◆

今回は「絶対に休めない医師がやっている最強の体調管理」大谷 義夫 日経 BP です。

新型コロナウイルスの感染で大騒ぎですが、空気中にはたくさんのウイルスが飛び交い、エスカレーターの手すりやトイレのドアなど、どこにでも細菌はあります。一方、体調管理は健康にとって、まさに1丁目1番地です。この本は体調管理について医師が自ら実践しているアドバイスです。内容は下記です。

“体調管理には大きく3つの柱があります。1. 体調を崩す最大の原因である風邪・インフルエンザを予防する 2. 食事など生活習慣を整えて「体調を崩さない基礎体力」をつける 3. 睡眠不足や運動不足など「不調のトリガー」を取り除く”です。

このような本は数え切れないほど出版されていますが、この本の内容は全て科学的な論文のエビデンスが示されています。主観や経験、そして思い込みではありません。ですから紹介することにしました。下記に目次を紹介しましょう。これがエッセンスです。さらに詳細を知りたい方は、この本を読んでください。

第1章 科学的に証明された風邪の予防法とは？ 驚くほど知られていない風邪の実態 ヒトは、人生で200回、風邪をひく マスクを究めて「飛沫感染」をシャットアウト 日本人の7割は「マスク」を正しく使えていない 体調管理は「手」から始まる 硬貨を使わずキャッシュレス決済！ 手にウイルスをつけない 風邪の“常識”をアップデートする 風邪をひいても風呂に入っている！ コラム お酒を頻繁に飲む人ほど風邪をひきにくい？

第2章 風邪による体調不良はどれだけ早く治せる？ 「風邪のひきはじめ」にやるべきこと 風邪のひきはじめにプールで5分泳ぐワケ 「風邪薬」は本当に効くか？ 市販薬には何が入っている？ 解熱剤にはデメリットも 知っておきたいインフルエンザの基本 夏でも流行？ ひと冬に2回かかることも コラム 風邪を早く治す食べ物・飲み物はあるか？

第3章 絶対に休めない医師がやっている生活習慣 大公開！ 絶対に休めない医師の24時間 AM7:00 起床 タオルを握って血圧を下げる AM7:30 洗面所で舌だし体操、早口言葉も AM8:00 朝食はヨーグルトにリンゴ、バナナを混ぜて AM8:30 出勤中、なるべく病原体をもらわないよう注意 AM10:00 隙間時間に「立ったり座ったりスクワット」 PM0:00 昼休みに 15 分の昼寝、10 分の散歩 PM6:00 忙しくなったら血圧測定、ココアを飲んで血圧を下げる PM8:30 帰宅し、手洗いと一緒に洗顔 PM8:40 夕食では、トマトを加熱して食べる PM10:30 入浴してリラックス！ 寝る前にスマホを見ない コラム 男性のほうが症状を大げさに伝える？

第4章 体調不良にならない体を作る食事術 本当に医者いらず？ 1日1個のリンゴ バナナで血液サラサラ、高血圧予防も 食べ続けてこそ効果があるヨーグルト 体に良い、エゴマ油をスプーン1さじ 脱水対策のためにも、たんぱく質をとる 花粉症対策になる柑橘類、糖分の多い清涼飲料は体に悪い コーヒーは1日3杯！ 緑茶で…

第5章、忙しくて眠れなくてもやってはいけない習慣。睡眠不足、週末の寝溜めが招くリスク スマホだけじゃない、快眠を妨げる光 寝ても取れない疲れの原因は「いびき」 安眠の為にルーティーンを見つける

第6章 短時間でも効果的忙しい医師の運動習慣 運動は免疫力を上げ、病気リスクを下げる 激しい運動は免疫力を下げるので NG

ここで薦められていることはほとんど知っていましたが、改めて再確認できました。うれしいコラムが1つありました。「お酒を頻繁に飲む人ほど風邪を引きにくい」ということです。あくまでもワイン3杯程度のことですが、ほっとした気持ちになりました。私は飲み過ぎですが。

実は私は、この40年くらい風邪で仕事休んだ事ありません。鼻風邪をひいたかなと思ったときにはビタミンCとビタミンBを3時間おきに飲みます。これでだいたい押さえこんで、熱を出すようなことはありません。ただ粘膜がやられていますから、その後鼻汁や痰が黄色くなります。

これは今回ご紹介した私の食生活にあると思います。朝の野菜ジュースは確かに免疫力に効いていると思います。運動も週一回ストレッチジムに行っています。そして免疫力を高めるという指圧も週に1回くらいは受けています。ともかく免疫力を高める、ということでフードピラミッドの一番上の層の人参、セロリ、レモンなどを積極的に毎日とるようにしています。ニンニク、生姜、ネギは必ず食事の中に入れます。

免疫力を高める食事と体調管理で、元気ハツラツな人生を送りましょう。

◆雑感・私感◆

以上も雑感・私感ですが、できる限り参照データを紹介しています。個人のブログは面白いですが個人的な偏りがありますから、できるだけメジャーなメディアを引用しています。以下は独り言として下さい。

気候温暖化対策。ダボス会議でも議論されましたが、世界の首脳はなかなか動きません。政治家は化石燃料産業の大きさと影響力を考えると動けないのかもしれませんが。人によっては利権として繋がっているのでしょうか。石炭についても、トランプ大統領は別格としても、あのメルケル首相でも歯切れが悪いです。森林火災で大変なオーストラリアも、首相が石炭産業に支持基盤を依存しているようで問題になっています。この大火災の中で、ハワイでバカンスとは人格的な問題もあります。

安倍首相の気候温暖化対策の発言は、ほとんど聞いたことがありません。最近では憲法問題だけです。やっと小泉進次郎が声をあげました。ベトナムの石炭火力発電所の建設に日本が融資して中国が建設する、これはおかしいと。長いプロジェクトの経緯がありますから難しいことは分かっていますが、このテーマは、最近下半身問題で評価を落としている小泉進次郎のリベンジの場所かもしれません。

韓国の文在寅大統領が、ますます反米姿勢を強めています。南北融和を声高に主張していますが、なぜか北朝鮮は一切評価していません。両者の関係はどうなっているのか、不思議です。トランプ大統領と同じで目前の総選挙を考えて、鉄板支持層の左派を固める

ためにこの姿勢をとっていると思いますが、日本以上に韓国は、アメリカ軍に安全保障を依存しています。なにしろ首都のソウルはミサイルでなく、長距離砲の射程範囲です。核兵器は使えませんが、通常兵器であれば誘えば使えます。海軍に至っては、日本の海上自衛隊を仮想の敵として考えているようです。一番近い隣国で文化も近いはずですが、あまりにも認識が違います。ただ大統領の認識と韓国国民の大勢は、かなり乖離していると思っています。大統領はある意味、ささやかな日本の譲歩を求めているかもしれません。それに応える日本側の対応も必要かもしれません。

中国の次の世界経済の成長エンジンであるインドが、変調をきたしています。ヒन्दゥー至上主義で国内が混乱し分断しています。いきなり古い紙幣を無効にするといった大胆な決断は評価しましたが、ヒन्दゥー至上主義に固執するインドは成長力を失う可能性があります。少なくともイスラム諸国からは反発を招くでしょう。といってもインドは資本主義経済で、民間企業は逞しいですから若干成長率が落ちてでも成長を続けていくと思います。インドにはかつて10数回出張しましたので、潜在成長力は体感しています。親日的な国民性も日本にとって貴重です。

イギリスのEU離脱もほぼ確定となりましたが、その後イギリスがどうなるのかは、歴史的な実験です。金融サービスはそんなに大きな影響は受けないと思いますが、製造業とりわけ自動車産業は深刻な問題に直面することになるでしょう。裾野が広いサプライチェーンは、これまでと同じ関税同盟の条件でないとやっていけません。日本ではホンダが撤退しているの、残るのはトヨタと日産です。この両者は、かなり規模が大きいのので簡単に欧州大陸に移動できません。といって、今後は大きな投資をすることはないでしょう。欧米や中国の自動車企業もイングランドに多くの拠点を持っています。この人たちも徐々に英国から引いていく可能性があります。分断された英国で、持てる人たちが保守的なポピュリズムを煽り離脱に至った結果は、興味があります。

それにしても日本の政治はひどすぎます。国会でまともな論戦を見たことはありません。緩みきった安倍政権の不道徳性、何でも反対の立憲民主党、これを許す国民、この国の品格と知能を世界はどうみているのでしょうか。あまりにもひどいので、日本のニュースもあまり見る気がしません。トランプという、どうしようもない道化が舞台の中央にいますが、プーチン大統領と習近平という別の主役もいて、メルケル首相、マクロン大統領という脇役も活躍する、そして北朝鮮とイランという悪役が派手な演技をしている国際政治は、無責任ですが興味を持って観劇できます。

◆内容・記事に関するご意見・お問い合わせ/配信解除・メールアドレス変更は
webmaster@fukan.jp まで。

◆俯瞰 MAIL97号(2020年1月26日、配信1月30日)
発行元:一般社団法人俯瞰工学研究所
発行人:松島克守
編集長:松島克守

配信人:石川公子

URL:<https://www.fukan.jp/>
